

Link つながる Live 生きる Learn 学ぶ Labour 労働 Liberty 自由



エルコンパス

宝塚市立男女共同参画センター・エル

2023年3月 Vol.50

宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

特集

単身、非正規雇用の女性の困窮と不安

雨宮処凛さん講演会『ただ生きる～無条件の生存の肯定～』より	P.1
単身、非正規雇用の女性の困窮と不安	P.2～P.3
講座案内：4月～7月・情報図書	P.4～P.6
情報・図書コーナーより	P.7
施設利用案内	P.8

開催日 12/11 (日)

令和4年度 宝塚市男女共同参画プラン推進フォーラム

雨宮処凛さん講演会『ただ生きる～無条件の生存の肯定～』より



1975年生まれ、就職氷河期に社会に出たロスジェネ世代。リストカットを繰り返していたフリーター時代を経て「生きづらさ上級者」を自称し、15年以上格差・貧困問題に関わってこられた作家・活動家の雨宮処凛（あまみや かりん）さんに、コロナ禍での支援現場の実状や、誰もが安心して生きられる社会への提言をお話し頂いた、今年度の宝塚市男女共同参画プラン推進フォーラム（令和4年12月11日開催）。今号の特集ではその講演内容の一部をご紹介しますながら、雨宮さんも支援が手薄であると指摘されていた“単身、非正規雇用の女性の困窮と不安”について考えてみます。

支援現場の光景に変化が・・・

2007年から『反貧困ネットワーク』の副代表、のちに世話人として支援活動をし、リーマンショック後に日比谷公園に開設された“年越し派遣村”の現場にも出られていた雨宮さんが、「これまででない規模の打撃」と感じられたコロナ禍。最も驚いたのは、以前は中高年男性が中心だった相談や、炊き出し、食料配布の列に若者や女性の姿が目立った事だったと言います。（→次頁に続く）

特集

単身、非正規雇用の女性の困窮と不安

「他人事とは思えない」という声

これまで、女性の貧困については、男性稼ぎ手の存在を前提とする社会の中で、男性の貧困問題の陰に隠れてしまっていたことや、男性に比べ路上生活者となる人が少なかったことなどから、実態がなかなか浮かび上がってきませんでした。

コロナ禍では、仕事と子育ての板挟みに苦しむシングルマザーや、生理用品すら買う余裕がない若年層や学生の状況についてはメディア等で取り上げられ、行政などによる食料や生理用品の配布などの支援に繋がりましたが、単身女性、中でも非正規雇用で働く女性は支援制度の対象になりにくく、その困窮状況についてはほとんど取り上げられることがありません。

コロナ禍の2020年11月、渋谷の深夜のバス停で、60代の単身女性が殺されました。彼女は路上生活者で、2月まで派遣会社に登録し、スーパーの試食販売員として働いていました。20代で上京して結婚したものの、夫のDVが原因で離婚。その後転職を繰り返し、当時の所持金はわずか8円。劇団に所属していた若い頃の写真が公開されると「普通の女性だった彼女がなぜ?」「彼女は私だ」と追悼する集会が相次ぎ、雨宮さんの講演会でも「私も単身で非正規の女性。支援現場を訪れる女性たちの姿が、他人事とは思えない」という声があがりました。

女性活躍推進の陰で

ここ10年程、女性活躍推進という名のもと女性就業者数は大きく増加してきましたが、その多くは非正規雇用者です。2021年における非正規雇用労働者の割合は、男性21.8%に対し女性は53.6%で1400万人を超えています。(令和4年版 内閣府 男女共同参画白書より) またその数を押し上げてきたのは主に対人サービス業でしたが、コロナ禍ではそのサービス業での雇い止めやシフト減が集中。非正規雇用の場合、休業手当が支払われたケースは少数にとどまり、雇用の不安定さや支援の少なさが露呈しました。

女性の収入の低さも以前から指摘されてきた問題です。女性一般労働者の給与水準は男性一般労働者の給与水準を100としたときの75.2。(令和3年 厚生労働省 賃金構造基本統計調査より) 非正規雇用者の女性の場合42.2%が年収100万円未満、38.7%が100~199万円と8割以上が200万円に満たない年収で就労しています。(令和3年 総務省 労働力調査より)

こうした状況では日々生きていくのに精いっぱい備えを十分に行うことは難しく、コロナ禍はすでにギリギリの状態でも生活してきた脆弱な女性たちを襲いました。単身者の場合、元々負担の大きかった住居費が払えなくなり、路上に出ることになったケースが多かったといいます。

雨宮さんの講演では、住む所を無くし、危険から身を守るために、背筋を伸ばしながらキャリーケースを引いて観光客のふりをして歩き、所持金が百円以下になるまで「こうなったのは自己責任」と頑張っていたという女性の話が紹介され、参加者のみなさんからは「予想を超える困窮の実状に驚いた」「普通に生きることが難しいという事実が辛い」といった声が相次ぎました。



昭和時代のままの社会保障制度

単身女性に対する支援がほとんど無い理由は、夫が働き収入を得て妻は専業主婦、子どもは2人という『標準モデル世帯』をベースにしてきた、日本の今までの社会保障制度にもあります。

高度経済成長期、正社員になれば終身雇用と年功賃金が約束される日本型雇用システムが押し進められ、その安定性と引き換えに、正社員は長時間労働を余儀なくされました。その結果、多くの場合不払いの家庭内労働を妻が担うことになり、国も専業主婦を前提とする配偶者控除や第三号被保険者制度などの税制の優遇によって、『男性稼ぎ主モデル』を後押ししてきました。

それは、長く続いてきた家父長制の意識とも符合し、“夫は外で働き妻は家庭を守るべきである”という性別役割分担の固定化を招き、『標準モデル世帯』を構成しない母子世帯や単身女性を経済的に困窮させる要因となってきました。

1992年には働く女性が専業主婦の数を上回りましたが、その大半は“主婦パート”と呼ばれる非正規雇用で、男性稼ぎ主による包摂が前提であったため、企業はその労働を“家計補助”として捉え、自立に足る賃金や待遇は得られないまま、現在までほぼ改善されることなく、非正規で働く女性たちは雇用の調整弁として利用されてきました。

今、家族の姿は多様化し、50歳時の女性の未婚割合は、1980年の4.45%から2020年には17.81%へと増加。男性の終身雇用と年功賃金も過去のものとなり、年間約60万件の婚姻件数に対して、離婚件数は年間約21万件になりました。(令和3年内閣府 結婚と家族をめぐる基礎データより)

政府もそのような状況を踏まえ、「もはや昭和ではない」と現行の制度や政策の見直しに向かっていますが、現状では妻でも母でもない女性が利用できる支援がほとんどなく、経済的に不安定な非正規雇用の単身女性たちを困難な状況に追いやっています。

将来への不安にも

また、収入の低さはそのまま高齢期の年金額の低さにつながり、将来への不安に繋がります。今もすでに65歳以上の単身女性の約半数は、相対的貧困(標準的な所得の半分を下回る水準で暮らす)状態とされていますが、ロスジェネ世代と言われる40代、50代も中高年になり、中には不本意にもずっと非正規雇用で働いてきたという人が少なくありません。経済的基盤が脆弱な人ほど、社会保障のセーフティーネットからこぼれ落ち、高齢期の貧困につながる可能性が高くなっているのです。

私たちに一人ひとりに出来ること

かつてはご自身が生きづらさを抱え、他者への不信が強かったという雨宮さん。今、多くの仲間たちと貧困支援の現場に立ちながら、「まだまだたくさんの方が、日々SOSを言わないままにいる」と言います。困難な状況を自分のせいだと感じ、人に頼るのはよくないと思っていたり、他人や社会への信頼が持てずに外部に助けを求められない人がたくさんいると。

今回、単身、非正規女性の困窮や不安を取り上げてきましたが、彼女たちの問題はずっと以前から存在しており、その解決には法制度の抜本的な改革や支援事業の拡充が必要です。そして私たち一人ひとりが、困っている人への想像力を働かせ、声なき声を探し出す努力をすることも。

雨宮さんは、「プライベートなつながりの中で、助けて!と言ってもらえる自分になる事を心がけている」と仰っていました。講演のタイトルにもなった、ただ生きる。すべての人の無条件の生存が肯定される。そんな社会の実現を強く願って。

<講演会に参加された方より>



「私も助けて!と言われる人になりたい」(50代女性)

「自分から始まる優しさの輪を広げていきます」(30代男性)

「知らない事が沢山ありました。共感しながら聞きました」(40代女性)

「雨宮さんのお話に勇気づけられました」(50代男性)

「私88才ですが、今の自分にできる事、今一度考えてみたい」(女性)

講座案内

4月～7月

講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

親子育ちセミナー

4月3日(月)から受付

5月20日(土) 10:00～12:00

小学1・2年生のための CAPワークショップ



CAPとは子どもがいじめや虐待などの暴力から自分で自分の身を守るためのプログラムです。大切な3つの権利(安心・自信・自由)について学び、その権利が奪われそうになったとき、何ができるかを子どもと一緒に考えていきます。ロールプレイの劇を交えながら、楽しいプログラムです。

- 対象：子どもワークショップ：小学校1・2年生 20人(子ども参加の際には、必ず保護者のおとなワーク参加が必要)
おとなワークショップ：大人 30人(保護者・祖父母・地域で子どもの見守りをされている方等)
☆大人だけの参加も大歓迎! ☆ ★子どもワークで実施するロールプレイや子どもへの対応などお話しします★
- 保育：10人(1歳～就学前まで) 5/12(金)までに要予約・先着順
※NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西スタッフが担当します。



5月12日～6月9日(毎週金曜日)全5回 10:00～12:00

スター・ペアレンティング講座 ～叩かず 甘やかさず 子育てする方法～

私の子育て、これでいいのかな?成長する子どもとどう関わっていけばいいのかな?など、日々の子育てに迷いながら過ごしていませんか。この講座では、子どもの発達段階や気質に合わせた子育て方法を学びます。ちょっと肩の力をぬいて、ワークを交えながら、子育てについて一緒に考えてみませんか。

- 講師：竹下 郁代さん・奥平 恭子さん
(NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ)
- 対象：子育て中の方、子どもに関わる大人30人
- 保育：10人(1歳～就学前まで)
5/4(木)までに要予約・先着順

5月12日	概論 スター・ペアレンティングとは? 問題をさける
5月19日	良い行動を見つけ出す
5月26日	感情を認める
6月2日	限度を設ける
6月9日	新しいスキルを教える・まとめ

情報リテラシー

5月2日(火)から受付

6月10日～6月24日(毎週土曜日) 全3回 13:30～15:30

'コロナ後の社会と'メディア・リテラシー ～コロナ後の社会を生きるわたしたち～

コロナ禍は、私たちの社会、とりわけ女性、子ども、高齢者の生活に大きな影響を及ぼしています。この大きな変化の中で主体的に生きていくために、溢れるメディアとどう向き合っていくのか。ジェンダーの視点から、メディアとは何か、いかなる傾向があるのかを知り、メディア社会の生き方を参加者どうし対話を深めながら考えてみませんか。

6月10日	メディア・リテラシー入門	6月17日	ニュース報道を読み解く
6月24日	'コロナ後の社会'とわたしたちのメッセージ		

- 講師：西村 寿子さん 田島 知之さん 藤井 玲子さん (NPO法人 FCT メディア・リテラシー研究所)
- 対象：テーマに関心のある人 30人
- 保育：10人(1歳～就学前まで) 6/2(金)までに要予約・先着順



講座案内

4月~7月

講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

男女共同参画基礎講座

5月2日(火)から受付

6月3日～6月24日(毎週土曜日) 全4回 10:00~12:00

男女共同参画スタディーズ2023 ジェンダーと私と違和感



社会のいたる所に存在するジェンダー不平等の問題。それは決して他人事ではありません。
ふとしたきっかけで現状に対して違和感を覚えている方へ。
自分の中のモヤモヤを紐解くヒントを、この講座で見つけましょう。



6月3日	<ジェンダーとメディア> 「問題はどこにある?メディアのジェンダーイメージをめぐる論争」 堀 あきこ さん 関西大学 人権問題研究室 非常勤研究員	
6月10日	<ジェンダーと多様な性> 「多様な性のあり方が尊重される社会をめざして」 井谷 聡子 さん 関西大学 文学部 准教授	
6月17日	<家族とジェンダー> 「96%の女性が結婚で改姓しているモヤモヤと、新しい家族の形」 永田 夏来 さん 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 准教授	
6月24日	<ジェンダーに基づく暴力> 「DVの被害者支援としての加害者プログラムより」 伊田 広行 さん 非暴カルーム・大阪 「NOVO」 運営者	

- 対象：テーマに関心のある方 40人 ※原則全回参加/ただし1回ごとの参加も可
- 保育：10人(1歳~就学前まで) 5/26(金)までに 要予約・先着順

女性セミナー

6月5日(月)から受付

7月6日～7月13日(毎週木曜日) 全2回 10:00~12:00

母と娘の関係って? ~毒親・親ガチャいろいろあるけど、わたしの場合は?~

うちの母、しんどい。ずっと母との関係で揺れてきた方。うちの娘、しんどい。娘となんだかぎくしゃくしてしまう方。
この講座では母と娘の関係に焦点を当て、そのしんどさは一体何なのかを探っていきます。また、ワークを通して自分の
気持ちを整理し“わたしの生き方”を考えます。

7月6日	母と娘の関係を考える 宮本 由紀代 さん NPO法人 心のサポート・ステーション 代表理事
7月13日	わたしの人生はわたしのもの 田上 時子 さん NPO法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長



- 対象：テーマに関心のある女性 25人 ※全回参加できる方優先 <先着順>
- 保育：10人(1歳~就学前まで) 6/28(水)までに要予約・先着順

講座案内

4月~7月

講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

パープルリボンカフェ

予約不要・当日センターにお越しください

4月25日(火)・7月25日(火) いずれも10:00~12:00

パープルリボンカフェ



皆でおしゃべりしながら、パープルリボンづくりをしませんか?リボンにお好みの飾りをつけるだけ♪お茶を飲みながら、[わいわい&チクチク] しましょう!フレンドシップキルトもあります。

- 持ち物：裁縫道具（お持ちであれば針・糸など。センターでも用意しています。手ぶらでどうぞ♪）
- ☆一時保育はありませんが、お子さん連れも参加OKです☆

ほっとサロン

6月15日(木) 10:00~11:30

5月2日(火) から受付

わたしに戻る 映画の時間「ラフィキ ふたりの夢」2018年/ケニア、南アフリカ他/82分

慌ただしい日々からほっと一息、『ママ』から『わたし』に戻ってエルで過ごすわたしだけの“映画の時間”をぜひ♪人を好きになるのにボーダーは無い。いまだに同性愛が違法とされるケニアで暮らす2人の少女の初恋を、音楽やダンス、ファッションアートなどのアフリカンカルチャーと共に描いた青春ストーリー。

- 対象：子育て中の女性 20人
- 保育：10人（1歳~就学前まで） 6/7(水)までに 要予約・先着順



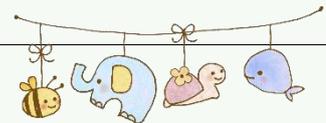
6月27日(火) 10:00~11:30

6月5日(月) から受付

親子で楽しむキッズルーム

お子さんを遊ばせながら、気になることを話してみませんか。「こんな時どうしてる?」「それ試してみよう!!」子育てが楽しくなるヒントが、きっと見つかります。親子遊びや絵本の読み聞かせ、簡単風鈴のミニ工作など、楽しいこといろいろ。親子で楽しむキッズルームへぜひどうぞ♪

- 対象：乳幼児とその保護者 10組
- 進行：NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ



パープルリボンカフェとは?

“女性に対する暴力をなくす運動”のシンボル、パープルリボン。
このリボンから、女性への暴力について関心を持ってもらいたい・・・
宝塚市立男女共同参画センターでは、有志の皆さんとリボンを製作し、広める活動を続けています。



女性の約4人に1人が、配偶者から暴力を受けたことがあり、女性の約10人に1人は何度も被害を受けています。
(令和2年度 内閣府「男女間における暴力に関する調査」より)

裁縫が苦手な方でも
簡単に作れます♪
お気軽にご参加ください



製作したパープルリボンはセンター主催講座やイベント開催時、または館内にて展示&ご希望の方に配布しています。

情報図書

情報・図書コーナーでは、女性問題の解決や男女共同参画社会をめざす

さまざまな活動をサポートする情報を収集し発信しています。



2022年度 貸出ベスト5



順位	資料名	著者名	出版者	貸出回数
1	燕は戻ってこない	桐野夏生	集英社	17
2	恋せぬふたり	吉田恵里香	NHK 出版	12
2	小説 8050	林真理子	新潮社	12
2	まんがでわかる自律神経の整え方	小林弘幸	イースト・プレス	12
3	九十八歳。戦いやまず日は暮れず	佐藤愛子	小学館	11
3	らんたん	柚木麻子	小学館	11
3	ほどよい距離が見つかる本	古宮昇	すばる舎	11
3	団地のふたり	藤野千夜	U-NEXT	11
4	リエゾン3	ヨンチャン	講談社	10
4	もう別れてもいいですか	垣谷美雨	中央公論新社	10
4	リエゾン5	ヨンチャン	講談社	10
4	現代生活独習ノート	津村記久子	講談社	10
4	流浪の月	凧良ゆう	東京創元社	10
4	戦争は女の顔をしていない	小梅けいと	KADOKAWA	10
5	リエゾン6	ヨンチャン	講談社	9
5	リエゾン4	ヨンチャン	講談社	9



本の情報や資料探しのお手伝いをします
お気軽にお声かけください♪

図書貸出は

お一人 5冊・2週間

宝塚市在住以外の方も借りられます。

年間 180冊ほどの新刊本も随時入荷。

雑誌・コミックもあります。

図書担当のおススメ本

46歳で父になった
社会学者

工藤保則

「男性の失敗話、女性の苦労話ではない、育児の語られ方がもっとあっていいはずだ」と著者は言う。産後、体調を崩した妻とは、二人で家事・育児を協力していかないと暮らしが回らない。育児に取り組むというより「育児の真っ只中」な日常生活が書かれている。子どもの成長を信じること。成長を通して自分も周りも変わっていく事。周りの優しさを信じること。子どもと一緒に生きる中で驚きや優しさにあふれた一冊。

「46歳で父になった社会学者」
著：工藤保則 2021/3 ミシマ社



机の並べ方、テスト、ランチ……国が変われば、こんなにも教育のあり方が違う！ソ連(当時)に生まれ、両親の転勤にともない、6つの国(ロシア、日本、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ)4つの言葉で教育を受けた著者ナーシャの体験記。正解はない、違いがあるだけ…。「当たり前」って何？「ふつう」って何だろう？と見方が変わる楽しい本。親子で読むのもおススメですよ♪

「6カ国転校生～ナーシャの発見～」
著：キリーロバ・ナーシャ 2022/7 集英社

施設利用案内



詳しくはセンター、またはセンターのHPで
<https://www.takarazuka-ell.jp>
 電話番号：0797-86-4006

学習交流室等のご利用

センターでは、学習交流室（5室）とプレイルームを有料でお貸ししています。グループ活動・ミーティング講演会等にご利用いただけます。

活動内容・利用者の居住地により受付開始日や料金が異なりますので、詳しくは受付までお問い合わせください。

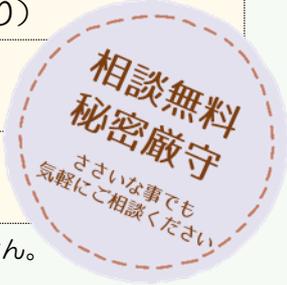
※営利を目的とした活動（「カルチャー教室」や「おけいこごと」の指導者による利用を含む）はご利用いただけません。



女性のための相談室

予約番号：0797-86-4006

電話相談	月・火・木・金・第2、3、4土曜日 10時～12時／13時～16時 直通電話（予約不要）：0797-86-3488
面接相談	第2・4水曜日 10時～、11時～、12時～ ※要予約・相談時間 50分
法律相談	第1土曜日（原則） 14時～、14時45分～、15時30分～、16時15分～ ※要予約・相談時間 45分（市民対象 原則1人1回限り）
起業相談	第1・3水曜日 10時～、11時～ ※要予約・相談時間 60分
チャレンジ相談	第1水曜日（原則） 11時～、12時～、13時～ ※要予約・相談時間 50分



※電話相談以外はすべて一時保育あり（要予約） 年末年始及び祝日の全相談業務はありません。

セクシュアルマイノリティ電話相談

専用電話番号：0797-71-2136

毎週水曜 15時～18時（祝日・年末年始を除く）（問い合わせ：宝塚市役所 人権男女共同参画課）

自分の性や性的指向に伴う相談をはじめ、さまざまな相談に応じます。本人、家族、友人、教員などなたでも相談できます。

宝塚市立男女共同参画センター・エル

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

開館時間：月曜日～土曜日（9時～21時）

日曜日・祝日（9時～17時）

休館日：毎月第2日曜日・年末年始

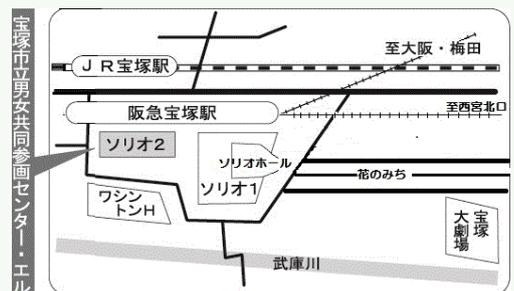
〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL：0797-86-4006 FAX：0797-83-2424

Facebook



LineID：@763zrxid



ホームページ：<https://www.takarazuka-ell.jp/>
 メール：elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp